



復刻版

女性改造

戦前編 ● 全12巻・別冊1〜(一九三二(大正二)年一〇月〜一九三四年二月)

「姉妹解放のために」

「新しい女」が登場して一〇年余。

女性解放論を展開し

成熟させた雑誌、

待望の復刻!



揃定価―本体二四万円十税
解説―尾形明子・鈴木裕子



一九三二年一〇月、

「不当なる忍従を強ひられ、奴隷として待遇されつつある

幾百万姉妹解放のために」(創刊号巻頭言) 本誌は誕生した。

社会主義色の濃い総合雑誌として成功していた

『改造』の姉妹誌として

文学・評論・科学分野での豪華な執筆陣を擁し、

一九二〇年代のフェミニズムの旗手である女性たちが多数執筆。

高踏的な女性解放雑誌として一時代を画した

『女性改造』戦前編の復刻版!

不二出版





復刻にあたって

『青鞜』が創刊され「新しい女」が擲論された時代から約一〇年、大阪では全関西婦人連合会が、東京でも新婦人協会が結成され、女性の運動と文化が成熟してゆく時期に『女性改造』は創刊された。社会主義的性格を強めて成功した総合雑誌『改造』の姉妹雑誌として出発した本誌は、創刊号巻頭言では、性差別社会のなかで「不当なる忍従を強ひられ、奴隸として待遇されつつある幾百万姉妹」である女性たちが、何を奪われてきたか、どうエンパワメントすべきか、を鋭く問いかけている。

Table of contents for '女性改造' magazine, listing various articles and authors such as 秋田雨雀, 芥川龍之介, 安部磯雄, etc.

主要執筆者

- List of main contributors including 秋田雨雀, 芥川龍之介, 安部磯雄, 網野 菊, 有島武郎, 生田長江, 石原 純, 石本静枝, 市川房枝, 伊藤野枝, 井上秀子, 内田魯庵, 宇野浩二, 生方敏郎, 大橋房子, 岡田八千代, 岡本かの子, 小川未明, 荻原井泉水, 奥むめお, 賀川豊彦, 神近市子, 上司小剣, 河井醉茗, 北原白秋, 紀平正美, 木村 毅, 木村莊八, 倉田百三, 厨川白村, 小見山富恵, 堺 利彦, 佐藤春夫, 島崎藤村, 島田清次郎, 鷹野つぎ, 武林文字, 武林無想庵, 竹久夢二, 田子静江, 橘あやめ, 谷崎潤一郎, 田山花袋, 近松秋江, 茅野雅子, 千葉亀雄, 中条百合子, 辻 潤, 土田杏村, 徳田秋声, 永井 潜, 中里介山, 新居 格, 野上弥生子, 長谷川時雨, 長谷川如是閑, 埴原久和代, 馬場孤蝶, 原阿佐緒, 平塚らいてう, 平林初之輔, 広津和郎, 深尾須磨子, 藤沢清造, 藤森成吉, 帆足理一郎, 堀江掃一, 三上於菟吉, 三宅やす子, 武者小路実篤, 室生犀星, 室伏高信, 森 律子, 森田草平, 守屋 東, 安成二郎, 柳 兼子, 柳原白蓮, 山川菊栄, 山田邦子, 山田わか, 山本宣治, 山本有三, 与謝野晶子, 吉屋信子, 若山喜志子, 若山牧水

内容見本

結婚難と社会的的研究

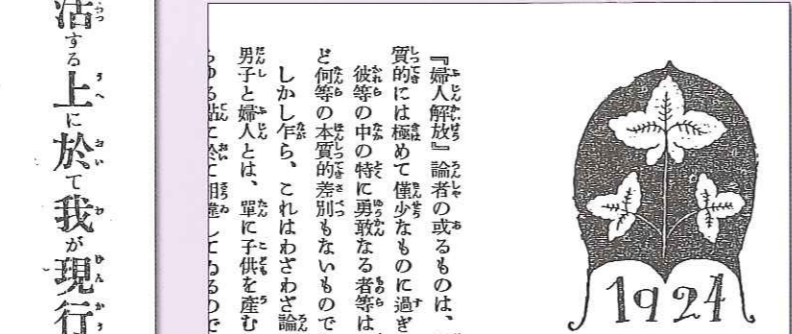
近代の社会進化と性の制度の頹廢

長谷川如是閑

— 廢頹の度制の性と化進會社の代近 —

近代文明の特徴の一として、屢々結婚難と離婚の増加とが数へられる。これを單純に男女の心的傾向の進化に原因すると考へれば、それは倫理學上の問題たるに止まるのであるが、此の問題は元來、性的生活の進化に關聯して考察すべきもので、決して單なる道德上の問題ではないのである。男女が互に、その倫理的感覚の發達の爲め、自由意志を壓迫されるやうな結婚の形式に不満を感じに至つたといふやうなことが、今までの形式による結婚を困難にして、男女の結合關係を紛亂せしめるに至つたのであるといふ風に考へるのには餘りに事態を「心的」に片づけ過ぎた誤である。性的生活の

制度は、その時代の社會組織に關聯して、必然の形式を探るものであつて、此の必然の形式が、男女の性的心理を規定するものである。即ち、男女は先天的に性的生活に對する一定の心理を賦與されてゐるのではなく、社會の進化に伴つて、その時代々々に於ける社會組織と一定の關係に於て成立する性的制度に依屬して、その性的心理が構成されるのである。一言でいへば、性的道德は、性的制度それ自らを作



婦人解放論の淺薄さ

「婦人解放」論者の或るものは、男女の一切の差別をなくして行くことが必要であると言ひ質的には極めて僅少なものに過ぎないのであると言ふ。彼等の中の特に勇敢なる者等は既に言明してゐる——子供を産むと産まないとの差別を何等の本質的差別もないものである。しかし乍ら、これはわざわざ論駁するまでもなくあまりに實際の事實を無視した言明である。男子と婦人とは、單に子供を産むと産まないとの相違だけでなく、その相違に原因して、又

女性改造談話會

現代女性間の友情

現代兩性間の友情

里見 弴
平塚らいてふ
山本有三
長谷川 時雨

×(司會) 今度の會は友情といふ題目をとりました。唯今から現代の女性同志の間に行はれてゐる友情について話して頂き、それから女性と男性間の友情を進めて頂きたいと思ひます。友情などといふと生活に密着せず、空気を論ずるやうなものだと言つた人もありますが、それだけに閉却されてゐるところも多いでせうから、一つ思ひきり御

いでせうか。何だか女の人の例になりがちです。それはで、家庭の内部にまで立入おせつかなことが女同志ひます。さういふこともあるで

女として生活する上に於て我が現行法に對し感じたこと

らいてう

私は法律に對して極めて貧しい知識しかもたない上に、法律に病を養つてゐる今の境遇では座右に法律に關する一冊の書物さへないのですから、自分がこれまでに持ち合はせてゐる書だたよらない記憶をもとにして書くより外術のないのの不満にも残念にも思ひます。併し一個の法律學者としての立場から御提示の問題(日本の現行法に現はれたる婦人の隷屬的精神の廢除)を論ずる方は他にいくらもゐられる事ではせう。で、私は法律の研究者としてではなく、日本に生れた只の一人の女として女並の生活をしてゆく上に於て、我が現行法に對し、否應なしに感じさせられるさまざまの實感から出發して、女の生活に最も關係の深い民法親族法を中心としてこの問題に就いての私見を述べてゆく事にいたします。我が現行法は御承知の通りまだ家族制度を多分にとつてゐまして「家」といふ一つの幽霊の存在を認めてゐます。そし

新時代に入った女性思潮を展開

●成田龍一

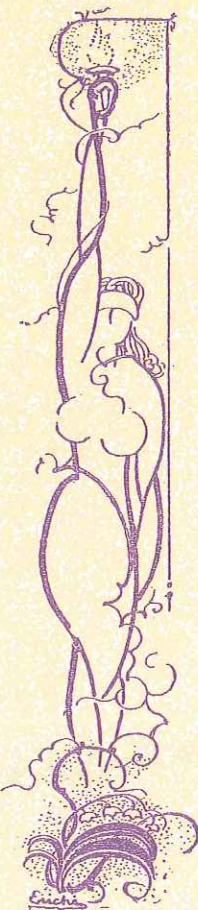
近年の日本近代史研究では、「大正デモクラシー」の後期、すなわち米騒動以降の時代を「改造」の時代」として把握することが多くなっている。一九二〇年代には、それまでの「民本主義」の潮流に取って代わる、あらたな動向が生起したとし、それを一九一九年に創刊された雑誌『改造』を念頭に置きながら、このように特徴づけるのである。

このことは、一九二〇年代が複雑な様相を持つことともに、雑誌『改造』が、みごとにこの時期の政治と社会を写し取っていることを意味している。後世の歴史家までも感嘆させる時代感覚を、『改造』の刊行者である山本実彦は有していた。このとき、山本実彦は、一九二二年に、いまひとつの雑誌『女性改造』を発刊している。一九二〇年代の女性たちの旗揚げが、

この時期に転換を見せていることを考えれば、山本の時代感覚には舌を巻く。創刊号の巻頭言には、「自由—解放—新生—独立」にさらに、「反省」「深刻」「戦闘」の三句を付加すると述べられている。

『女性改造』の誌面には、山川菊栄を筆頭に、山本宣治、神近市子らが名を連ね、中里介山や長谷川如是閑、賀川豊彦らも寄稿している。山田わか、奥むめおの顔も見える。一筋縄ではいかない『改造』の時代の「女性」にかかわる主張と論考が、ここに展開されている。一九二〇年代のありようを考察するうえで、欠くことのできない雑誌が復刻されることになった。大いに期待したい。

(なりた・りゅういち 日本女子大学人間社会学部現代社会学科教授)



女性運動をリードする指針を提示

●石月静恵

『女性改造』が創刊された一九二二年は、全国水平社・日本農民組合・日本共産党の創立と日本の社会運動が高揚した時代であった。女性運動においても、女性の政治集会参加を禁止した治安警察法が改正され、各地で女性たちによる政談集會が開催された年であった。

この一九二二年一月から一九二四年一月までという短い期間ではあるが、関東大震災を挟んで進歩的女性誌『女性改造』が刊行されたのである。社会主義の立場からの評論や解放論、男女平等論の立場からの発言など、同誌が女性知識層に与えた影響は大きかったと思われる。

これまでに、女性団体の機関誌を中心に復刻版が刊行され、

近代の女性運動史研究は豊かになってきたが、『女性改造』の復刻は、女性運動史だけではなく、当時の生活や思潮についての史料としても活用できる。また、諸外国の「婦人参政権運動」や「職業及び副業状態」なども掲載されており、女性の政治的権利獲得や労働改善への志向も示されている。もちろん山川菊栄の時評「新婦人協会の解散」、東京連合婦人會や関西連合婦人會（全関西婦人連合會）、全国小学校女教員大會など同時代の女性運動についても掲載されている。その『女性改造』が復刻されることは、女性史研究の進展に寄与することと期待を寄せている。

(いしづき・しずえ 桜花学園大学人文学部教授)



「婦人雑誌」植民地文化」からの解放を目指したメディア

●佐藤卓己

大宅壮一は「婦人雑誌の出版革命」(一九三四年)において、婦人雑誌を「植民地」向け大衆雑誌と評した。「仁丹のやうなもの、何にでも利くやうにみえて実は何に利くかわからない」——そのような大衆性の限界を超えようとした婦人雑誌こそ、『女性改造』といえるだろう。

当代一流の学者・文化人を総動員した誌面からは、男性文化の植民地性を超えようとする熱意が伝わってくる。もちろん、「婦人記者もなくて編輯するやうな次第でした」(創刊号編輯後記)という限界や、部数低迷も指摘すべきだろう。しかし、女性向けの高級雑誌という存在そのものが時代への挑戦だった。平林初之輔は「婦人雑誌管見」(一九二七年)で高級婦人雑誌が不可能な理由をこう説明している。

「程度の高い婦人といふのは、婦人としての問題ばかりでなく、一般の社会人としての教養をより多分にもつてゐる人といふことに外ならんのですから、これらの婦人に対して、婦人雑誌は何等なすべき手段をもたぬでありませう」

平林がこう書いたのは、『女性改造』(一九三二(四年)や『女性日本人』(一九二〇(二四年)が挫折し、プラトン社の『女性』(一九三二(八年)が低迷し、『婦人公論』が告白記事を売り物に大衆化する時代である。

復刻版『女性改造』は、男性文化の「植民地」から脱却しようとした女性メディアの可能性とその時代的限界を示す第一級の資料といえるだろう。

(さとう・たくみ 京都大学大学院教育学研究科助教授)





●関連図書（復刻版）のご案内

女子文壇社刊（一九〇五～一三年刊行）

女子文壇

全五四巻・別冊一

●別冊II解説（渡邊澄子）・総目次・索引
●菊判・上製・総約二五、〇〇〇ページ
●揃定価II本体九万九千四百十税

若い女性たちの自己表現の場を提供した投稿雑誌。文壇への登竜門であると同時にのちに広く社会に影響を与えた女性たちを輩出した。

叢書『青鞥』の女たち

全二〇巻（総二二冊）

●函入・総七、七二〇ページ
●揃定価II本体一五万五千十税

『青鞥』同人及び『青鞥』周辺の女たちの代表的著作二〇点を選び、復刻。それぞれに解説付き。

平塚らいてう『可憐より』

伊藤野枝『乞食の名聲』

与謝野晶子『激動の中を行く』

岩野清『愛の争闘』

生田花世『燃ゆる頭』

荒木郁『火の娘』

青鞥社同人『青鞥小説集』

神近市子『引かれもの唄』

長谷川時雨『美人伝』

水野仙子『水野仙子集』

山川菊栄『婦人問題と婦人運動』

上野葉子『葉子全集』全冊

山田わか『女・人・母』

田村俊子『木乃伊の口紅』

木村駒子ほか『新しき女の行くべき道』

西川文子『婦人解放論』
中平文子『女のくせに』
松井須磨子『牡丹刷毛』
三宅やす子『未亡人論』
鷹野つき『悲しき配分』

西川文子ほかII主宰（一九三三～一六年刊行）

新真婦人

全六巻・付録一・別冊一

●別冊II解説（岡野幸江）・総目次・索引
●菊判・上製・総四、一二二ページ
●揃定価II本体二万四千十税

男性中心社会を厳しく糾弾し、女性問題、女性解放を見据えた評論雑誌。大正デモクラシーの息吹を伝える多彩な執筆陣を擁す。

尾竹一枝II主宰（一九一四年三月～八月刊行）

番紅花

全六冊・別冊一

●別冊II解説（渡邊澄子）・総目次・索引
●菊判・並製・総一、四〇八ページ
●揃定価II本体三五、〇〇〇円十税

青鞥社を退社した尾竹一枝（紅吉）の初々しい興味と個性が生きた「純芸術雑誌」。執筆はほかに神近市子・小林歌津・松井須磨子・森鷗外など。

ピアトリス社II刊（一九一六～一七年刊行）

ピアトリス

全二巻

●解説（岩田ななこ）・総目次・索引付き
●菊判・上製・総六五〇ページ
●定価II本体一八、〇〇〇円十税

『女子文壇』『青鞥』に連なる、女性に開放された文芸雑誌。平塚らいてう・岡本かの子・吉屋信子などが執筆。

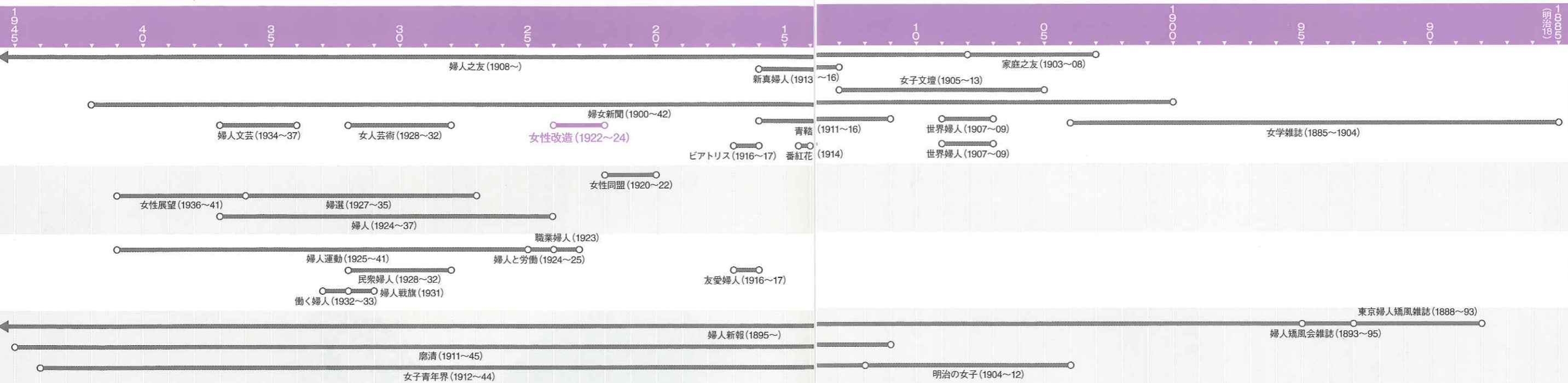
戦前女性雑誌・機関誌の系譜

文学・思想

政治・女権

労働

キリスト教



●関連年表

1890	7	集会及政社法によって女性の政治結社加入・政談集会参加が禁じられる
1900	3	治安警察法第五条が集会及政社法を引き継ぎ、女性の政治参加を禁じる
1911	9	『青鞥』創刊
1913	5	『新真婦人』創刊
1914	3	『番紅花』創刊
1916	1	『婦人公論』創刊
1916	7	『ピアトリス』創刊
1919	4	『改造』創刊
1919	11	第一回婦人会関西連合大会開催（のちの全関西婦人連合会）
1920	3	新婦人協会発会
1922	4	治安警察法第五条一部改正
1922	10	『女性改造』創刊
1922	11	アインシュタイン来日、『女性改造』二月号に小特集
1923	4	天才と言われたベストセラー作家・島田清次郎、女性監禁の疑いで逮捕、『女性改造』六月号小特集
1923	6	『職業婦人』創刊（のちの『婦人運動』）
1923	6	有島武郎、波多野秋子の心中事件、『女性改造』は八月に「有島武郎追想号」
1923	9	関東大震災、『女性改造』は「大震災記念号」
1923	9	厨川白村、鎌倉で津波に被災、死亡
1923	9	伊藤野枝・大杉栄・橋本吉・憲兵隊により殺害、『女性改造』は二月号に伊藤と大杉の「七年前の恋の往復」を掲載
1924	6	『女性改造』六月号に生田長江「婦人解放論の浅薄さ」掲載。一〇月号に反論として山川菊栄「婦人非解放論の浅薄さ」、二月号に生田のその反論が掲載
1924	11	『女性改造』終刊
1924	12	婦人参政権獲得期成同盟会発会（のちの婦選獲得同盟）
1924	12	『婦人』創刊
1925	3	男性のみの普通選挙法成立
1927	1	『婦選』創刊

奥むめおII主宰（一九三三～四一年刊行）

婦人運動

全三〇巻・別冊一

●別冊II解説（鈴木裕子）・総目次・索引
●A5判・B5判・上製・総九、九三八ページ
●揃定価II本体三〇万円十税

生活者であり労働者である女性の立場に立ち、「婦人消費組合協会」「婦人セトルメント」「働く婦人の家」を設立してきた職業婦人社の機関誌。

全関西婦人連合会II刊（一九二四～三七年刊行）

婦人

全二四巻・別冊一

●別冊II解説（藤目ゆき）・総目次・索引
●B5判・上製・総九、八六〇ページ
●揃定価II本体四万八千十税

西日本で三〇〇万人の会員を擁した戦前期最大規模の女性団体全関西婦人連合会の機関誌。女性差別的な法律の改正・廃娼運動・婦選運動などに積極的に取り組んだ。

婦選獲得同盟II刊（一九二七～四一年刊行）

婦選

全一九巻・別冊一

●別冊II解説（松尾尊兌・兒玉勝子）・総目次・索引
●A4判・A5判・B5判・上製・総七、五七二ページ
●揃定価II本体二九五、〇〇〇円十税

婦選運動の中核となって女性の参政権・公民権・結社権の獲得を目指した婦選獲得同盟の機関誌。

神近市子II主宰（一九三四～三七年刊行）

婦人文芸

全二〇巻・別冊一

●別冊II解説（黒澤亜里子）・総目次・索引
●菊判・上製・総六、三六二ページ
●揃定価II本体一五万五千十税

文学雑誌であると同時にフェミニズムをはっきりと意識した本誌は、『婦人文芸』後の数少ない女性表現のメディアであった。



復刻版

女性改造

戦前編



刊行概要

全二二巻・別冊一
一九二二年一月～一九二四年二月
全三五冊を二巻に合本●A5判・上製・総七、二四ページ

復刻版巻数 原本巻号数

第1回配本	第2回配本	第3回配本	第4回配本
第1巻 第一巻第一号～第二号	第1巻 第二巻第一号～第五号	第1巻 第二巻第一号～第三巻第一号	第1巻 第二巻第一号～第七号
二〇〇七年六月刊行 定価＝本体六万円＋税 ISBN978-4-8350-6068-2	二〇〇七年二月刊行 定価＝本体六万円＋税 ISBN978-4-8350-6072-9	二〇〇八年六月刊行 定価＝本体六万円＋税 ISBN978-4-8350-6076-7	二〇〇八年二月刊行 定価＝本体六万円＋税 ISBN978-4-8350-6080-4
第2巻 第一巻第三号～第二巻第一号	第2巻 第二巻第六号～第七号	第2巻 第三巻第二号～第三号	第2巻 第三巻第八号～第九号
第3巻 第二巻第二号～第三号	第2巻 第二巻第八号～第一〇号	第3巻 第三巻第四号～第五号	第3巻 第三巻第一〇号～第十一号
第4巻 第二巻第四号～第五号	別冊 解説・総目次・索引	別冊 解説・総目次・索引	別冊 解説・総目次・索引

●解説＝尾形明子(東京女子大学)

●鈴木裕子(女性史研究者)

●別冊＝解説・総目次・索引(別冊のみ分売可)＝本体一、〇〇〇円＋税
ISBN978-4-8350-6084-2

●揃定価＝本体二四万円＋税(各配本ごと六万円＋税)

●推薦＝成田龍一(日本女子大学)

石月静恵(桜花学園大学)

佐藤卓己(京都在校)



●表示価格はすべて税別。

不二出版

〒113-0023
東京都文京区回丘1-2-12
電話03-3812-4433
フакン03-3812-4464
振替001600294084